

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 稲本 泰生					
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	東アジア仏教美術研究										
【授業の概要・目的】											
東アジアで制作された仏教美術の遺品から重要な作例を取り上げて、関連する諸資料を参照しつつ意味内容を読み解き、派生する問題に検討を加える。考察にあたっては「仏教美術が宗教美術であること」「東アジアにとって仏教が外来宗教であること」に特に留意し、最新の研究成果を反映して、造形作品や視覚イメージの生成・伝播等の実態を構造的に把握することをめざす。											
【到達目標】											
近年の東アジア仏教美術研究における主要な論点について理解を深め、考察を行うための足がかりを得る。											
【授業計画と内容】											
本年度後期は、祖師及び羅漢を扱った遺品（主に唐宋時代）に注目し、重要作例数件の読解を起点として、派生する諸問題に検討を加える。各項目には【 】に示した週数を充当する。講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じ、講義担当者が定める。											
1．本講義の視点と問題意識【1～2週】											
2．唐宋時代の高僧像とその仏教美術史上の意義【4～5週】 テーマ：十大弟子像、伝法祖師群像など											
3．唐宋時代の羅漢図とその仏教美術史上の意義【5～6週】 テーマ：十六羅漢図・五百羅漢図など											
4．まとめと総括【1～2週】 フィードバック方法は授業中に説明します。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末のレポートにより評価する。レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。											
【教科書】											
使用しない											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する
必要な資料を配付する。

[授業外学習(予習・復習)等]

仏教美術鑑賞の基礎知識を得ておくことが望ましい。授業の前後を問わず、美術全集や各種図録を通して、また博物館や社寺において、作品に親しむ機会を積極的に作ってほしい。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。